

はじめに –横浜開港 150 年を記念したトライアスロン大会の開催に向けて– (環境に配慮した大会を目指して)

1859 年、横浜港が誕生しました。

2009 年、横浜開港 150 周年を迎えることから、これを記念して 2007 年に世界トライアスロンシリーズ横浜大会の開催が決定しました。日本ではあまり例のない都市型のトライアスロン大会の開催ということで注目を浴びましたが、その当時、横浜港の水質は赤潮や降雨により水質が悪化することもあり、スイム競技開催を危ぶむ声も多く、市民の誰もが横浜港を泳ぐことはできないと思っていました。

このため、横浜港の水質改善に向け、市民・行政（横浜市）・企業・大学等と一体となり、各種環境事業を協働で進めてまいりました。

しかし、現在では、海域環境改善の取り組みを進めた結果、市民の誰もが国際大会を開催できる水質レベルとなったこの横浜港を財産と感じています。



1 海域環境改善の取り組み

2009 年、横浜でのトライアスロン大会開催に向け、次のとおり水質環境の改善に取り組んできました。

- (1) 2007 年から、汚濁防止水中スクリーン設置による実証実験を繰り返し行った結果（次頁※1 参照）、大会開催に伴う水質基準をクリアし、2009 年に初めて、山下公園前海域において、2009WTS 横浜大会でのスイム競技が行われました。
- (2) 2010 年には、公共下水道事業は、ほぼ 100%となり、汚水の高度処理の導入により、水質環境は改善しましたが、降雨時の濁水等の影響もあり、状況は横ばい状態でありました。
- (3) 2013 年から現在においては、市民・行政・企業等と連携した「きれいな海づくり事業」に取り組み、海域の生き物が持つ浄化能力に着目し、改善に取り組んだ結果、遊泳ができるまでに水質環境が改善し、大都市横浜における自然の海でのトライアスロン競技の継続開催が可能となりました。

さらに、官民が一体となって山下公園前面海域に浅場を試験的に造成するため、鉄鋼スラグを原料とする再生資材を用いた生物の生息環境を備えました。

この結果、貝類や水中生物の増加が見られ、水質環境の改善が図られることが判明しました。

現在も、範囲を広げて実証実験を継続しています。

■ ※1 水中スクリーン設置図

「海域の浄化」

2008 年 海域の部分浄化実験



2009 年 山下公園前海域の部分浄化実験（スイム競技会場）



2 グリーントライアスロン（大会1か月前イベント）の開催

『自然環境にやさしいトライアスロン大会』を目指して、市民や環境団体とともに本大会のメイン会場となる山下公園内の清掃活動やスイム会場となる山下公園前面海域の海底清掃を実施するほか、海の魅力をPRする海中映像実況中継や、貝による水質浄化デモンストレーションなど、トライアスロンを通じて環境に配慮した取り組みをより多くの方へ発信し、地球環境への意識を高めることを目的として継続的に開催しています。



海中映像実況中継の様子



海底清掃で収集したゴミ



山下公園前海域に生息する海の生きもの展示

3 水源林間伐材の有効活用

横浜市の貴重な水源の一つである山梨県道志村の水源林間伐材を活用した取り組みを行いました。

『自然環境にやさしいトライアスロン大会』を目指して、道志水源林間伐材を有効活用した、入賞者等への記念品として、ヒノキ香る木目がひとつひとつ異なる「世界にひとつだけの木製オリジナルメダル」などの作製・配布を通じて、水源林の保全の重要性及び自然環境の保全の大切さを発信しています。

横浜市には水源がないため、他県の山林を購入し、貴重な水源を得ることで、横浜市民に安定して水を送り続けています。植林後の手入れが不十分であると水源林の保水能力が低下するため、間伐を行うことで木の成長が促進され、二酸化炭素を吸収し、温暖化防止に繋がっています。

（※間伐材とは・・・健全な森林を育てさせるため、木の成長に伴って混みすぎた木の立木を一部抜き伐った木材のこと）

○ 間伐材を活用した主な取り組み

山梨県南都留郡道志村の水源林間伐材を活用した

- (1) 木製メダルの作製
- (2) 大会スポンサー向け記念盾の作製
- (3) 大会オリジナル箸の作製
- (4) 先行エントリー者向け記念品の作製



8th Y-サイトトライアスロン大会
木製メダル



2018WTS 横浜大会
スポンサー向け記念盾

4 横浜ブルーカーボン事業との連携【参加選手自らが環境活動へ参画】

本大会では、大会運営者や大会参加者の会場までの移動により生じるCO²排出量を金額に換算し、参加者からの環境協力金でCO²をオフセットする取り組みを行っています。

併せて、わかめの栽培等による藻場・海中林（海の森）を育成し、水質改善に努めるとともに、地産地消によるCO²削減効果に着目した「完走わかめ」の配布など、地球温暖化対策と海域環境向上に繋げる取り組みを行っています。

この目的は、大会の実施に不可欠な「きれいな海」を確保し、競技環境の向上に繋げるとともに、環境活動に参加しているという選手自らの意識・満足度向上などが挙げられます。

なお、配布する「完走わかめ」は、水質改善が実現・実証された横浜の海で育った「横浜産わかめ」を配布しています。



2017WTSブルーカーボン証明書



配布した完走わかめ

○ CO²をオフセットする参加選手及び大会運営側のメリット

参加選手	大会事務局
競技環境の向上	大会運営の方向性と一致
参加者の満足度向上	先進的な世界初の取り組み
	地域貢献



5 国際標準規格（ISO20121）の認証取得

2012年大会において、イベントマネジメントの国際標準規格「ISO20121（イベントの持続可能性マネジメントシステム）」を国内ではじめて認証取得し、環境への配慮・地域貢献（社会性）・地域経済への波及効果（経済性）等の影響に配慮したサステナビリティ（持続可能性）の高いイベントを実施し、環境と社会へ貢献しています。

また、認証取得により、各スポンサーにおいては、この大会へ参画することにより、環境へ配慮した企業とのイメージが定着し、さらに、CSR活動（社会貢献活動）の一環として横浜大会を取り上げ、スポーツを通じた社会貢献・環境活動について社員への広報活動も活発化しました。



ISO20121 認定証

6 今後に向けて

これまでの水質環境の改善に向けた取り組みや、自然環境にやさしい大会運営における実績から、「トライアスロン・パラトライアスロンの街、横浜」が10年の歳月をかけ、定着しました。

今後、さらなる自然環境の改善に向けて、市民・行政・企業と一体となって取り組み、国内外へ横浜から自然環境の「保全と創造」を発信していきます。



花と緑あふれる自然豊かなコース①



花と緑あふれる自然豊かなコース②



さらにキレイな海を目指して



42万人を超える観戦者（2018大会）



横浜らしいコース設定
（シティプロモーション）



パラトライアスロンの推進